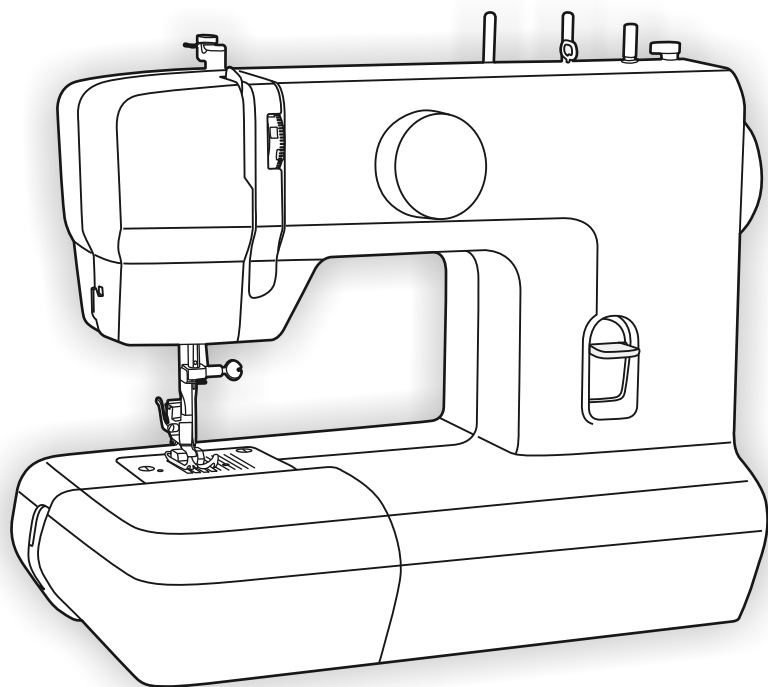


SINGER®

Instruction Manual

使用の手びき

型式: SN20A



このミシンを安全にお使いいただくため、この
「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読み下さい。
「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用下さい。

このたびは、ミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用ミシンです。

このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手引き」をよくお読みください。

「使用の手引き」は、保証書と共に大切に保管してください。

◆ 安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

 **警告：**感電、火災の恐れがあります。

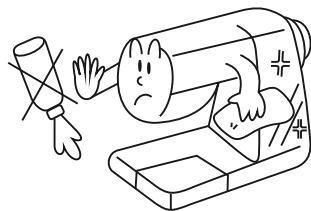
1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - ミシン使用中に停電したとき

 **注意：**感電、火災、けがの原因となることがあります。

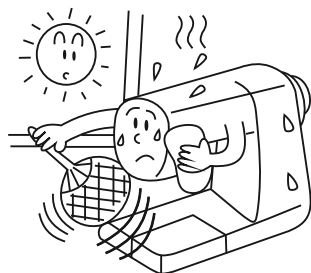
1. 電源をつなぐ際は、電源スイッチを必ず「OFF」にしてください。
2. お客様自身での分解・改造はしないでください。
3. ミシンの操作中はかまカバー・面板などのカバー類は必ず閉じてください。
4. ミシンの操作中は、針元から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 曲がった針はご使用にならないでください。
6. 裁縫中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
 - 針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき。
 - ランプを交換するとき。
 - 「使用の手引き」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - 上糸・下糸をセットするとき。
9. ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、ご購入店にて、点検・修理・調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

◆ ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。



- 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



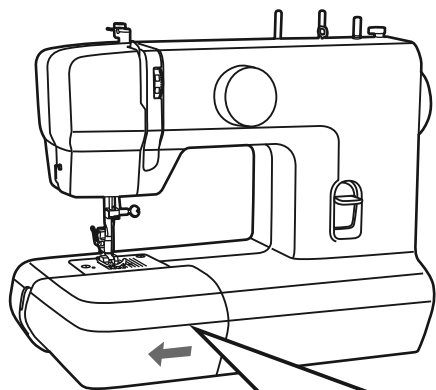
◆ 仕様

定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	70W
周 波 数	50Hz/60Hz
ランプ定格	LED
寸 法	幅：348mm × 奥行：183mm × 高さ：292mm
重 量	約 4.35 kg (本体のみ)

◆ 目 次

安全にご使用いただくために	2
ミシンの取り扱い、仕様	3
目次	4
付属品	5
補助テーブル	6
各部の名称	7
電源のつなぎ方と始動、停止	8
下巻の巻き方	9
ボビンの挿入方法	10
上糸のかけ方	11/12
下糸の引き上げ方	13
針の取付けと取り外し方	14
模様の選び方	15
上糸調子のとり方	16
押え金の取り付けと取り外し方	17
2 段式押え金、針と糸と布地の組み合わせ	18
直線縫い	19
返し縫い、縫い方向のかえ方、厚地の縫い始め、段縫い	20
飾り縫い	21
ジグザグ縫い 裁ち目がかり/ まつり縫い (ブラインドステッチ)	22
ボタンホールの縫い方	23
ファスナー付け	24
ミシンの手入れ	25
困ったときには	26
修理サービス要領	27

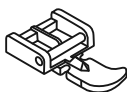
◆ 付属品



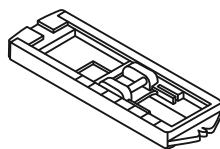
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。
(補助テーブルの取り外し方はP6を参照)



ジグザグ押え
(購入時はミシン
本体にセット
されています)



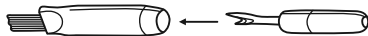
ファスナー押え



ボタンホール押え



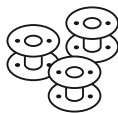
ドライバー



リッパー／ブラシ



針パック



ボビン

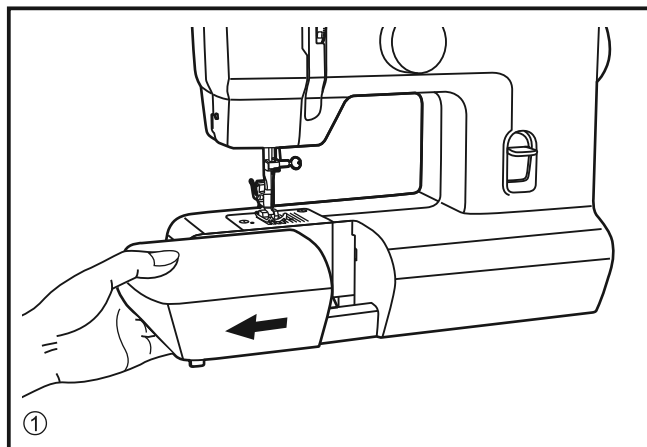


送りカバープレート



糸こま座

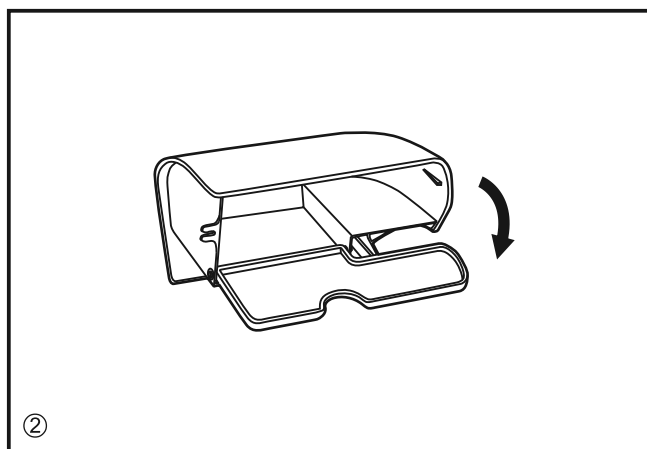
◆ 補助テーブル



- ① 補助テーブルの下側に手をかけ、左に引いて外します。

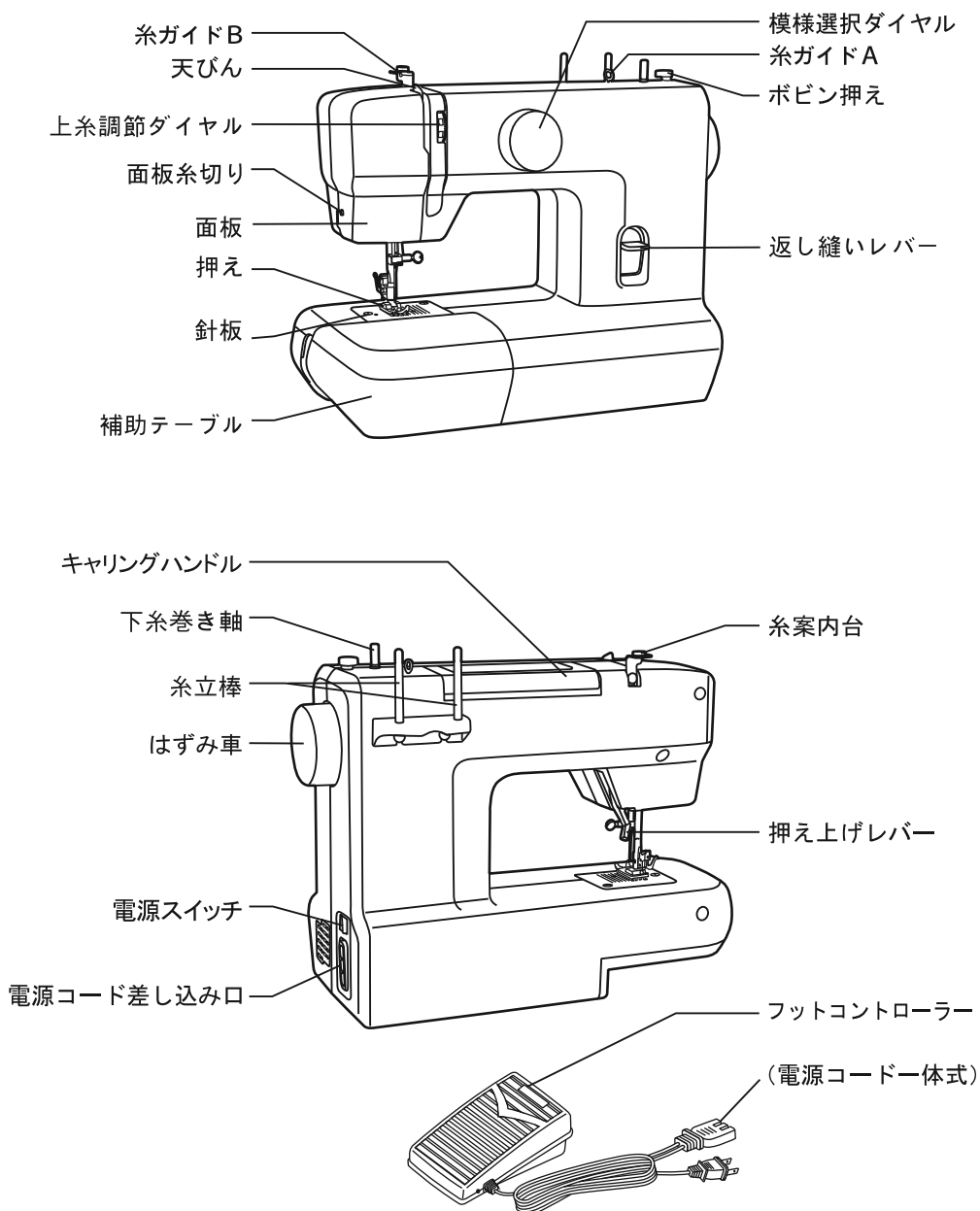
取り付けるときは、フリーアームに沿わせ、突き当たるまで押し込んで取り付けます。

補助テーブルを外すとフリーアームになります。袖口やすそ、袋物を縫うときに利用できます。



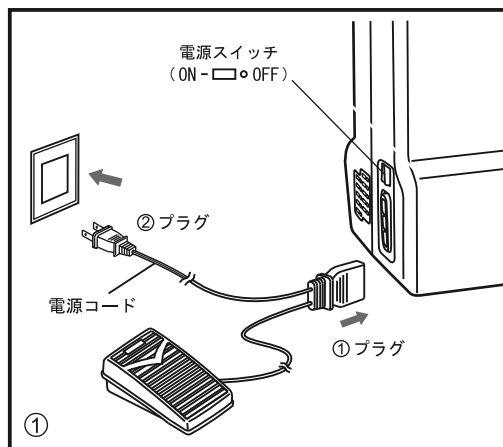
- ② 補助テーブルの内部は、付属品入れになっています。カバーは手前に開きます。

◆ 各部の名称



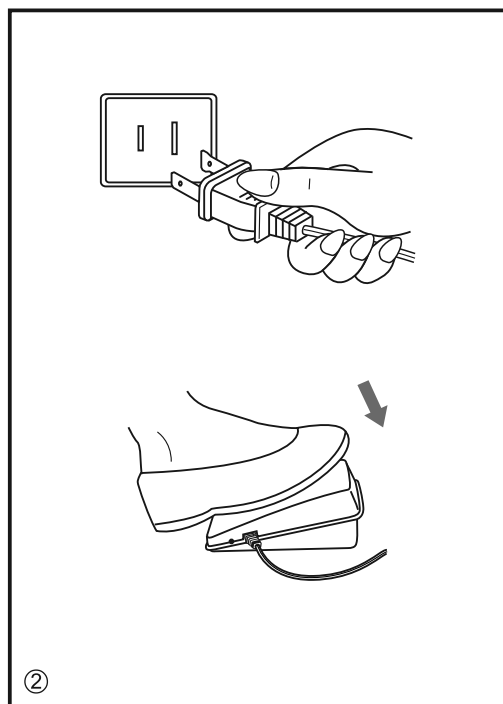
◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

⚠ 警告：感電、火災を防ぐために —————
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。



電源コードのプラグ①をミシン本体に差し込み、プラグ②を家庭用電源（100V50/60Hz）コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れると照明ランプが点灯します。



ご注意

- ・使用中に糸が絡んだり、ミシンが止まった場合は電源スイッチを切ってください。
- ・ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源プラグを抜いてください。

ミシンのスタート・ストップはフットコントローラーで行います。

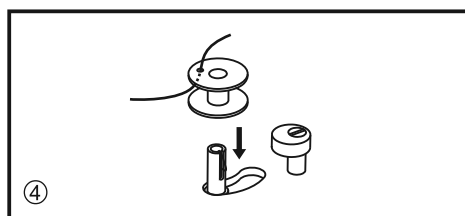
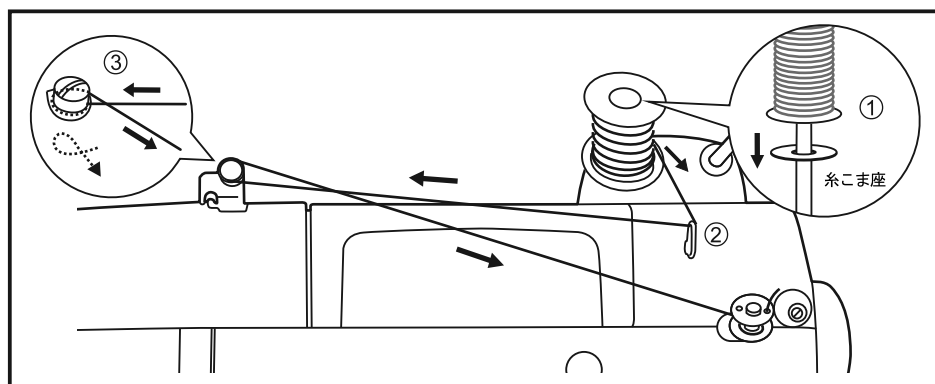
フットコントローラーの踏み加減でぬう速度を調節できます。

浅く踏む…おそい

深く踏む…はやい

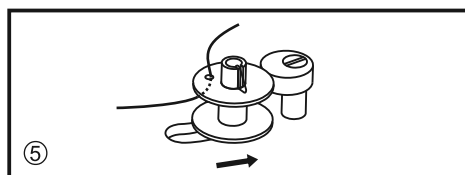
警告：感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、座ぶとんなどの下において使用しないでください。

◆ 下糸の巻き方



- ① 糸立棒に糸こま座を差し込み、糸こまを糸立棒に差しします。

糸こまに切りみぞがあるときは、それを下側にしてください。



- ② 糸ガイドAに手前から後ろへ糸を通します。

- ③ 通した糸をさらに引き出し、糸案内台の皿の間に糸がしっかり入るように手前から右回りに糸を掛けます。

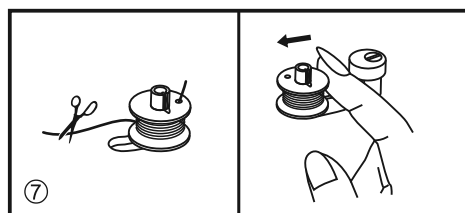


- ④ 糸案内台に掛けた糸を引き出し、ボビンの穴に内から外に通し、ボビンの溝と下糸巻き軸のバネを合わせて、ボビンを糸巻き軸に差し込みます。

- ⑤ 軸にセットしたボビンを右側に押します。

- ⑥ ボビンに通した糸端を持ったまま、フットコントローラーを軽く踏んで巻きを始めます。

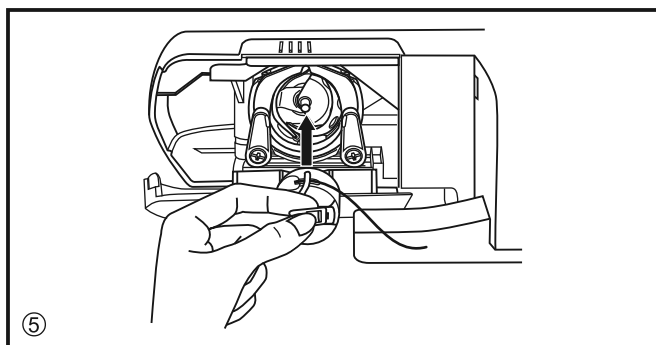
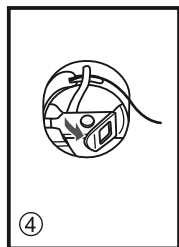
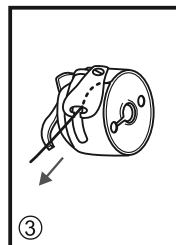
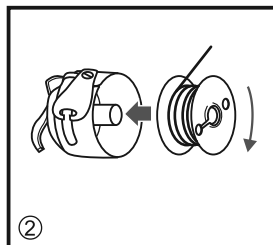
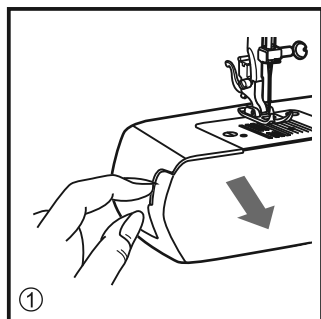
いったん止めて手で持った糸端を切り、もう一度巻き始めます。



- ⑦ 巻き終わるとボビンの回転がゆるやかになります。ミシンを止め、糸を切り、糸巻き軸を左側に戻してからボビンを取り外して下さい。

◆ ボビンの挿入方法

⚠ 注意：ケガ防止のために —————
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



下糸のセットは必ずはずみ車を回して針を上げ、押えを上げてから行います。

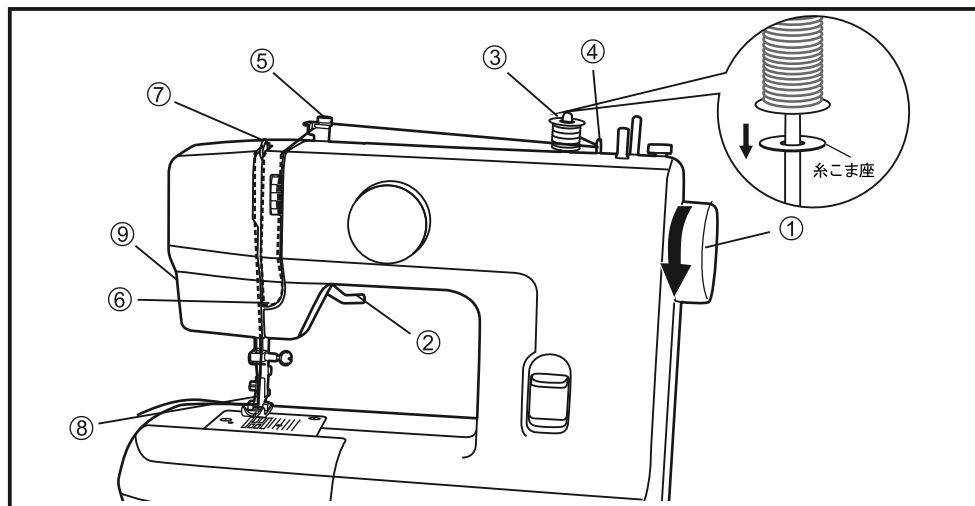
- ①カバーを手前に開けます。ボビンケースのつまみをおこして、取り出します。
- ②糸が時計回り(矢印の方向)に回るようにしてボビンを挿入します。
- ③糸を溝に通し、糸調子ばねの下を通し、糸口に引き出します。
- ④ボビンケースのツメの部分を持ちます。
- ⑤そのまま、釜の中にセットします。ボビンケースのツノの部分をかまの凹部に合わせ、奥の方まで入れてから、つまみをはなし、カバーを閉めます。

※ボビンの外し方

ボビンケースのつまみを閉じて下に向けると、ボビンが外れます。

◆ 上糸のかけ方

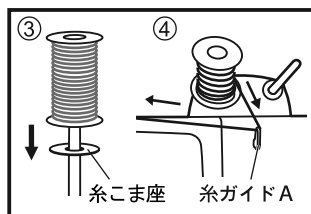
⚠ 注意：ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



① ご注意

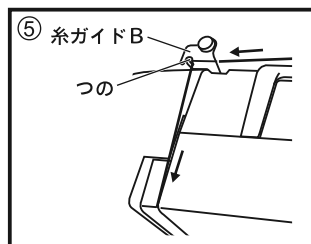
正しく糸掛けをしないと、糸がらみなどのトラブルの原因となります。糸は両手で持ち、ピンと張った状態で掛けます。はずみ車を手前に回して天びんを一番上まで上げます。

② 押え金は必ず上げた状態にします。(押え金を下げた状態で糸かけをした場合釜に糸がくい込みトラブルになることがあります。)



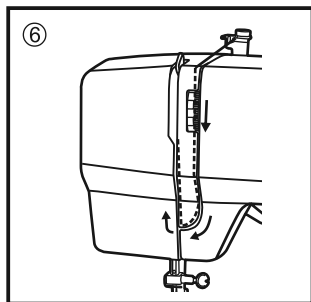
③ 糸立棒に糸こま座を差し込み、糸こまを糸立棒に差しします。糸こまに切りみぞがあるときはそれを下側にしてください。

④ 糸ガイドAに手前から後ろに糸を通します。

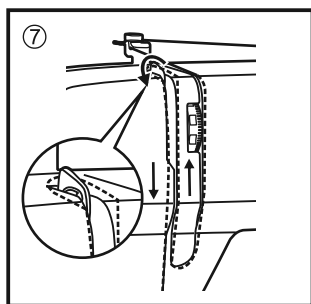


⑤ 糸を左に引いていき、糸ガイドBに後ろから手前に糸を掛け、つなの右に糸を掛けます。

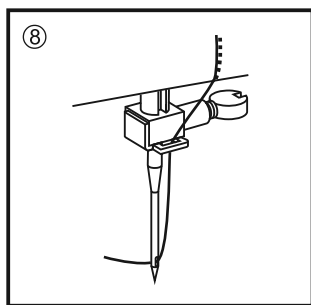
◆ 上糸のかけ方



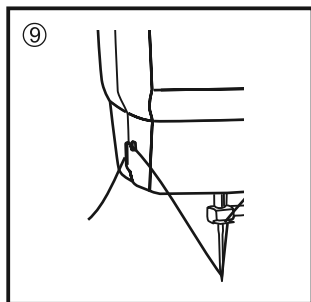
⑥ 糸をまっすぐ手前に引き、溝に沿って下に引いていきます。溝の終わりから左の溝に沿って糸を上を引き上げていきます。



⑦ 糸を天びんに右から後ろへ回して左手前に引き、溝に沿って下に引いていきます。

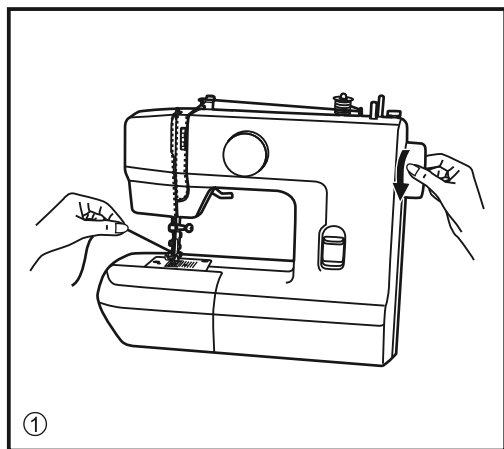


⑧ 針棒糸掛けに右奥から糸を掛け、針穴に前から後ろへ糸を通します。



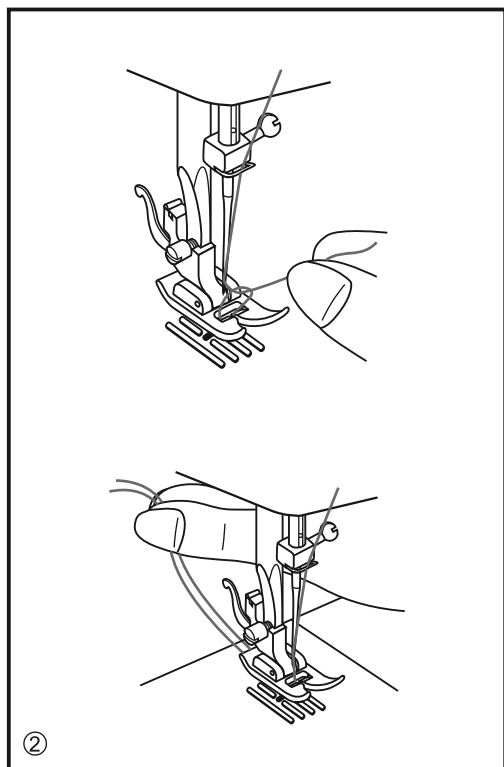
⑨ 余分な糸は面板糸切りでカットします。

◆ 下糸の引き上げ方



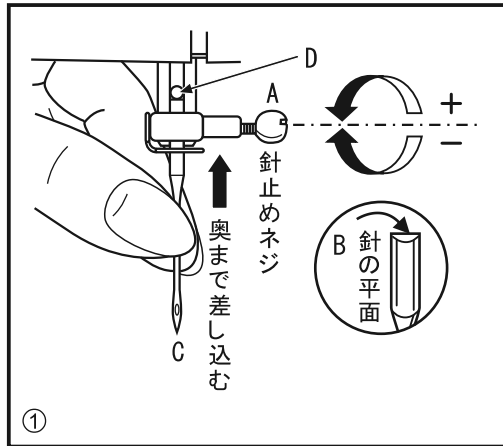
- ① 上糸の端を持ち、はずみ車を手前に回して針をいったん下げ、再びあげます。

※天びんが一番上にきていることを確認してください。



- ② 上糸を軽く引くと、下糸が輪になって引き出されます。上下の糸端をそろえて、押え金の下を通して押えの後ろ側に出します。

◆ 針の取付けと取り外し方



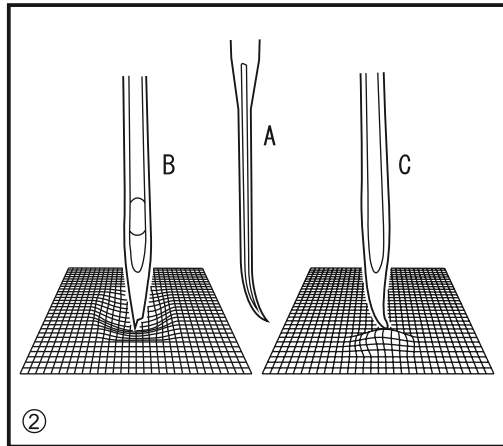
ご注意

針の取付けおよび取外しをする際には、電源を切ってください。

針は定期的に交換するようにしましょう。特に針に傷がついていて、うまく縫えないような場合には、すぐに交換するようにして下さい。

針の取付けは、図のように行います。

- A. 針止めネジをゆるめて痛んだ針を抜きます。
- B. 針頭部の平らな面を、後ろに向けて差し込みます。
- C-D. 針は、Dのピンに当たるまでしっかりと差し込み針止めネジを締めます。

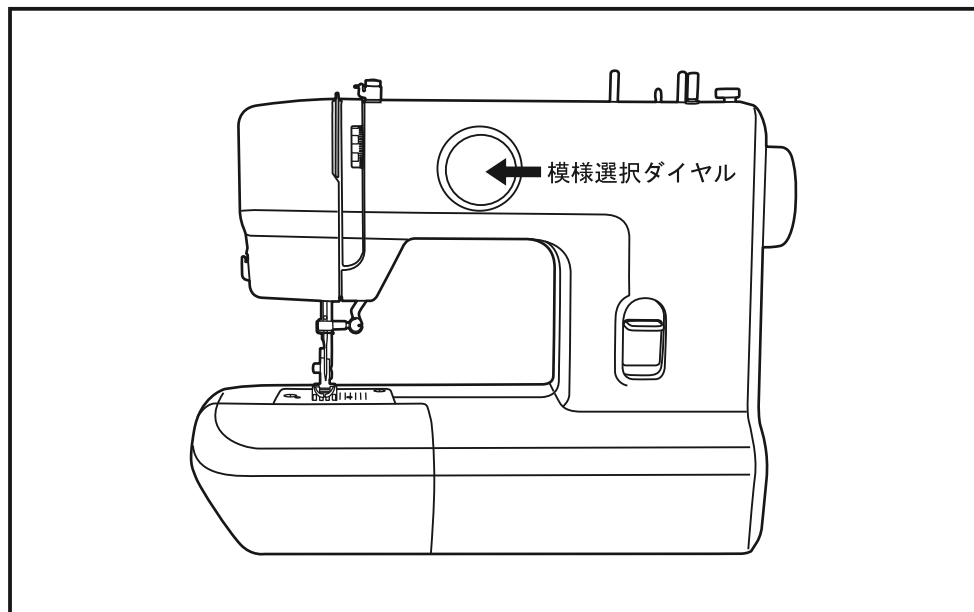


針は、出来るだけ新しいものをご使用下さい。

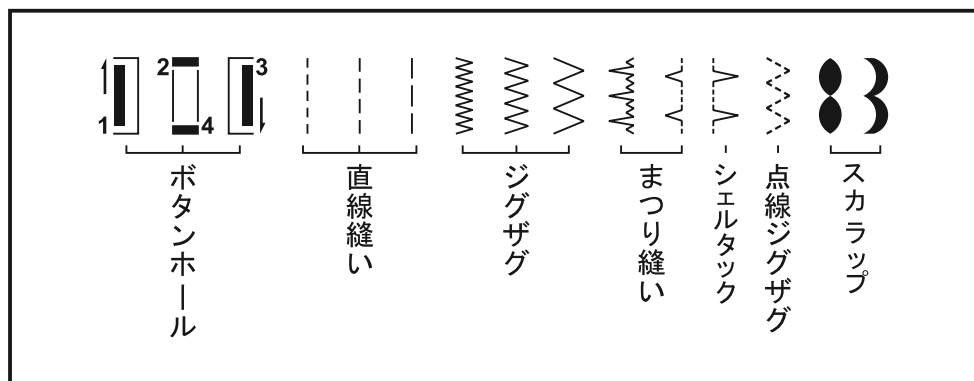
傷のついた針を使うと、うまく縫えません。

- A. 曲がった針
B. 針先に損傷のある針
C. 針先の鈍った針

◆ 模様の選び方



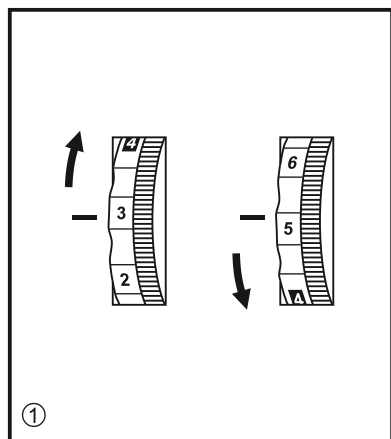
模様選択ダイヤルを回して、指示マークに縫いたい模様を合わせて模様を選択して下さい。



⚠ 注意：ケガ防止のために

模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を最上点まで上げてください。
針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。

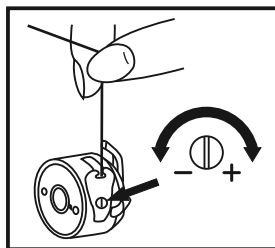
◆ 上糸調子のとり方



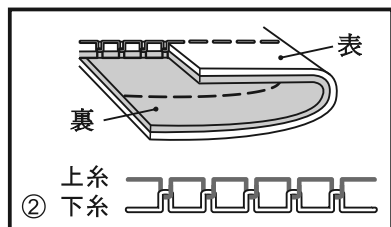
① 上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルを「**4**」を基準に糸調子が合わせやすく調節されています。

※上糸調子だけで調節できなかった場合は下糸を調節します。

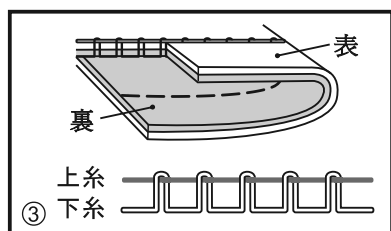


※ 下糸の張力は糸を持ち、ボビンケースをぶら下げた状態で軽く振ったときに 2～3cm 落ちて止まるのを目安にします。



正しく調節されている場合

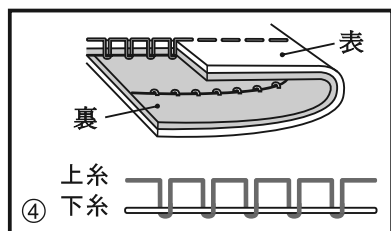
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときには、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。



上糸が強い場合

数字の小さい方に回すと上糸調子は弱くなります。左図のように、上糸と下糸が布の中間で交差して、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常です。

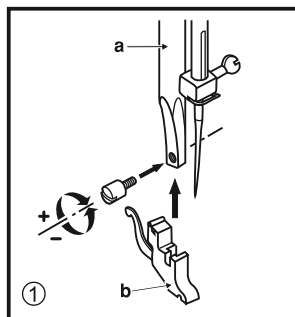
ボビンがきちんとセットされているか確認してください。



上糸が弱い場合

数字の大きい方に回すと上糸調子は強くなります。

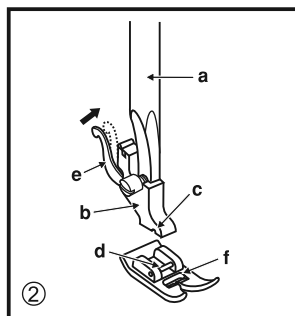
◆ 押えの取り付けと取り外し方



押えホルダーの取付け方

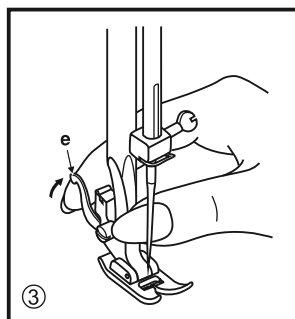
押え上げレバーを上げます。(a)

押えホルダー(b)を図のように取り付けます。(お買上げ時はミシン本体にセットされています)



押えの取付け方

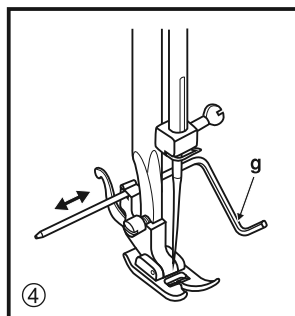
(d)のピンが(c)の切り込み部分の真下に来るようにして、押え上げレバーを下げます。



押えの取り外し方

押えを上げます。

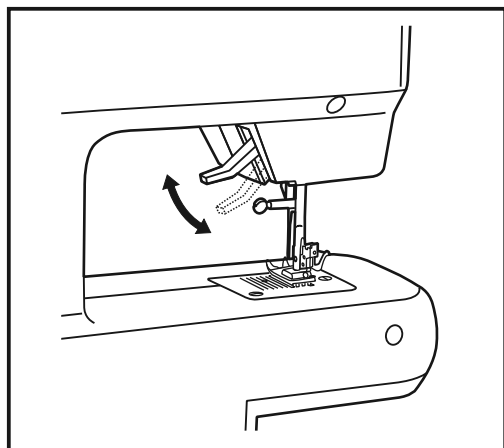
(e)のレバーを矢印の方向に押せば押えは外れます。



シームガイドの取付け方

シームガイド(g)を、図のように取り付けます。ヘム縫い、プリーツ縫い等の目的に合わせて、長さを調節します。

◆ 2段式押え金



押え上げレバーを使えば、押えを上下させることができます。

押え上げレバーは通常の上がった位置よりもう少し上げることができます。これにより押えが通常的位置より高く上がり、厚地などがセットし易くなります。

手を離すと元の位置に戻ります。

◆ 針と糸と布地の組み合わせ

	布地の種類	針の種類（番号）	糸の種類、太さ
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、 パイル地、ギンガム	11、14 番	綿 糸 60 番～80 番 化繊糸 60 番～80 番 絹 糸 50 番～80 番
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、 レース、キュプラ、サテン地	9、11 番	綿 糸 60 番～100 番 化繊糸 60 番～80 番 絹 糸 50 番～80 番
厚地	カーテン地、キルティング、フリー ス、ツイード、デニム、フェルト	14、16 番	綿 糸 40 番～50 番 化繊糸 30 番～50 番 絹 糸 50 番

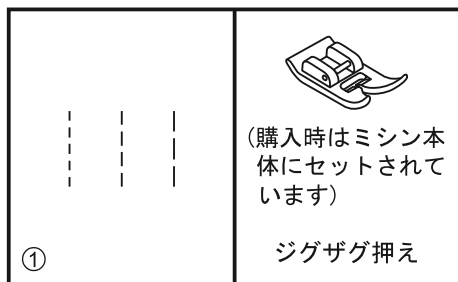
* 家庭用ミシン針はニット地用としての”ニット針”が市販されています。
ニットなどで、目とびする場合にご使用下さい。

* 薄い布地やニット布地の場合に生地がくい込んだり、縫いちじみがおきる場合、紙などをしいて縫い、縫った後で紙を破り取ればそれらを防ぐ事が出来ます。

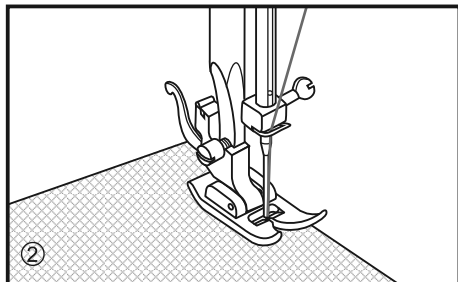
◆ 直線縫い

⚠ 注意：ケガ防止のために

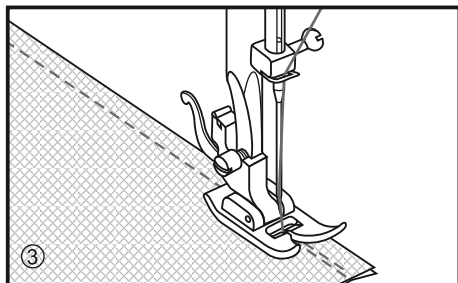
- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。



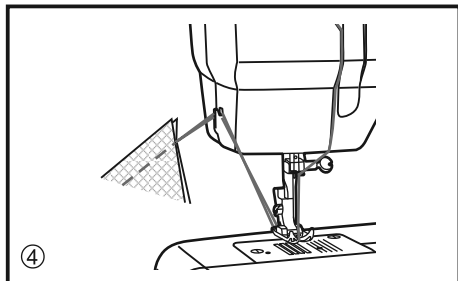
各部分をセットします。
模様選択ダイヤルを直線3種から選んで合わせます。



縫い始める位置ではずみ車を手前に回し、針を刺してから押えをおろしてください。
フットコントローラーを足で踏み、スタートさせます。

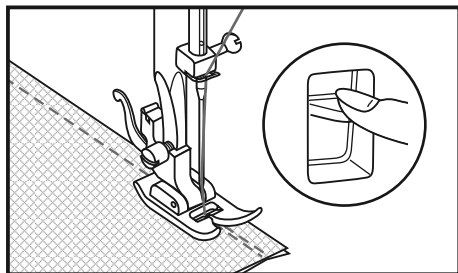


縫い終わったらフットコントローラーから足を離して、ストップします。
はずみ車を手前に回し天びんを一番上にあげます。



押えを上げ布地を後ろに引き出します。
糸は面板糸切りで切れます。

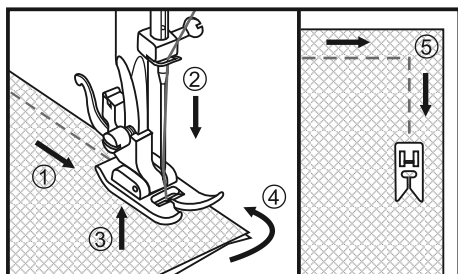
◆ 返し縫い



フットコントローラーを踏みながら返しレバーを押し下げます。押し下げている間は、返し縫いができます。レバーをはなすと前進します。

縫い始めと縫い終りに 3～5 針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

◆ 縫い方向のかえ方



布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を離します。(1)

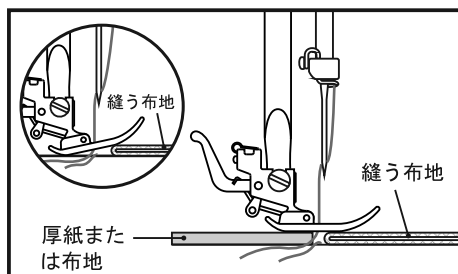
はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。(2)

押えを上げます。(3)

針を軸にして布地を回し、縫い方向にセッットします。(4)

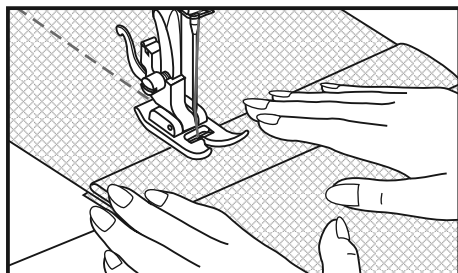
押えを下げて、縫い始めます。(5)

◆ 厚地の縫い始め

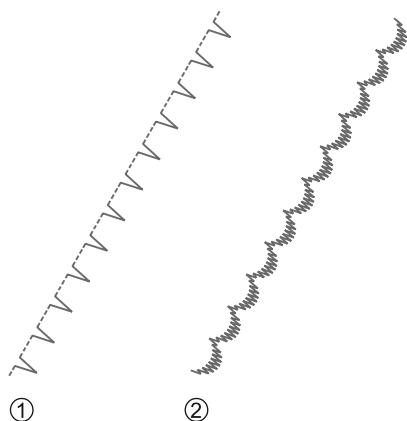
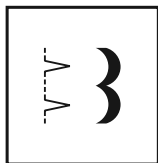
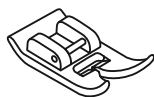


厚地の布端から縫い始めるときに、押えが傾いてスムーズに縫えないことがあります。このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがって縫い始めます。

◆ 段縫い



布地が重なって、急に厚くなった部分を縫うときは、手で布の送りを助けながら縫います。



シェルタック(1)

- ・布端を飾るのに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。
- ・模様選択つまみは、“”に合わせます。

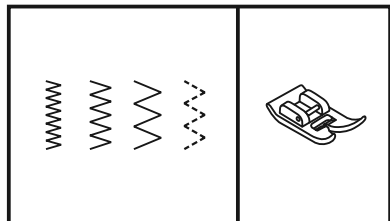
スカルップ縫い(2)

模様選択つまみは、“”にセットします。

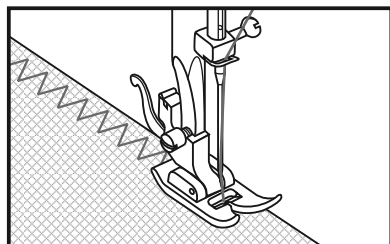
布を切る前に、切るラインに沿って縫います。縫い終わったら模様に沿って生地をカットします。

レースやフリルの端などの飾りにお使い下さい。

◆ ジグザグ縫い 裁ち目かがり

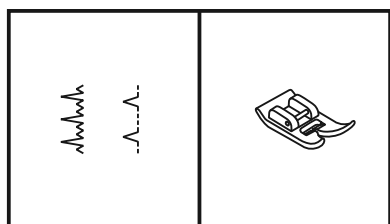


ジグザグ縫いの糸調子は、直線縫いにくらべ、上糸をやや弱めにし、うらに上糸がでるくらいが適当です。

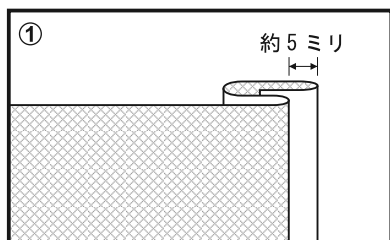


- 伸縮性のある布(ニット、ジャージー、トリコットなど)には接着芯を貼るときれいに縫えます。

◆ まつり縫い (ブラインドステッチ)

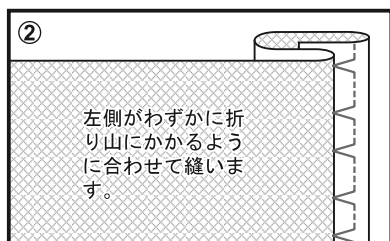


ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さんの服のたけの直しなどにもぜひご利用ください。



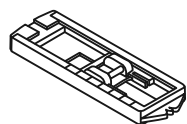
布地は左図のように折ります。

縫い上り後の布地の裏・表を間違えないように十分注意してください。

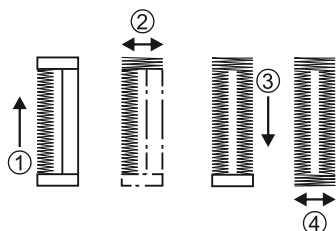
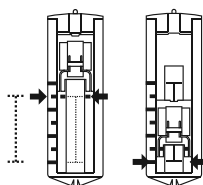
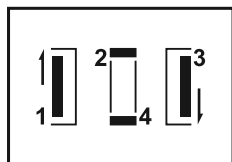


はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折り山にわずかに刺さるように布の位置を合わせて縫います。

◆ ボタンホールの縫い方

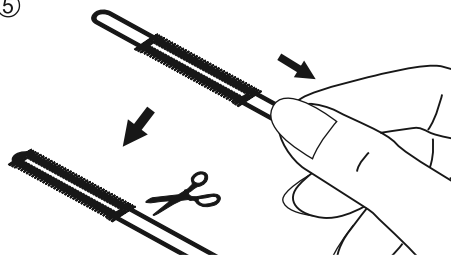


ボタンホール押え



②、④は5～6針縫います。

⑤



準備

模様選択ダイヤルに合わせます。

- ・ボタンホール押えに交換します。
ボタンの直径+厚みをボタンホールの穴かがり部分の長さとしします。
布にボタンホールのサイズを印します。

- ・ミシンに布をセットします。その際、布に付けたボタンホールの印の中心を、押えの穴の中央に合わせて、押えを下げます。

- ・4段階でボタンホールを縫います。
模様選択ダイヤルの図の1～4の順にダイヤルを合わせます。

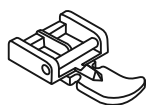
左図の①から④の順で縫います。

縫い終わったら、リッパーを使って、上下の端から中央に向かって、ボタンホールを開けます。

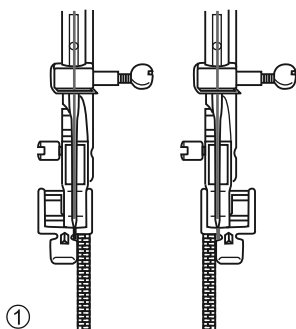
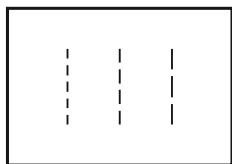
ヒント

- ・上糸の糸調子を少し弱くすると、きれいに仕上がります。
- ・薄手の布および伸縮性のある布には、必ず紙を敷いて縫ってください。
- ・伸縮性のある布およびニット地には、太い糸またはコードを芯糸として使います。
- ・芯糸は、ジグザグステッチの中に縫い込まれてしまいます。⑤

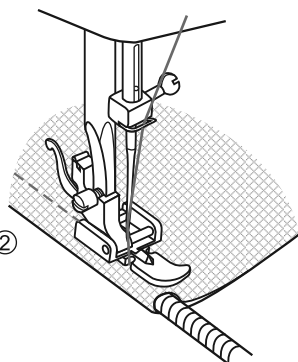
◆ ファスナー付け



ファスナー押え



②



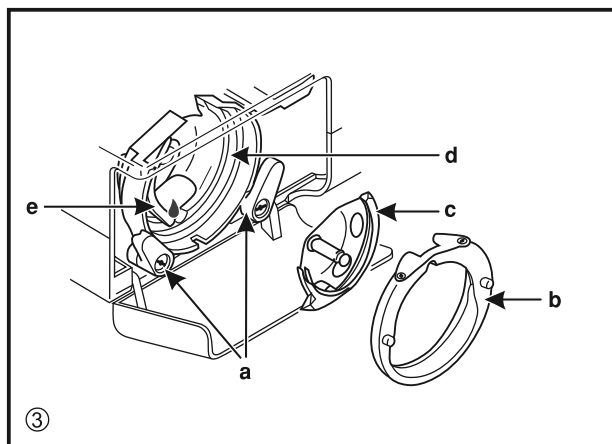
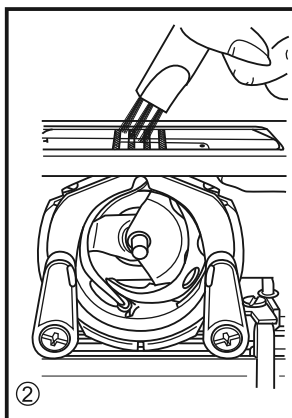
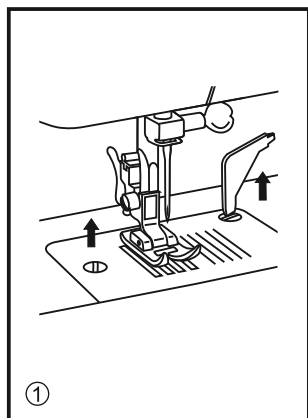
左のイラストを参照して、模様選択ダイヤルは、“|||”にセットします。

- ① ファスナー用押えは、縫う側に合わせて、左右どちらかにセットします。

ファスナーのムシ部分の手前まで縫ったら、針を布に刺したままの状態を押えを上げ、ムシ部分を押えの後方へ移動させます。その後、押えを下げて縫い続けます。

- ② その他、コードを縫い込むパイピングなどにも使用できます。

◆ ミシンの手入れ



ご注意

部品の交換やお手入れの際には、必ずスイッチをオフ(0)にし、ミシンの電源プラグを抜いて下さい。

お手入れ方法

針板の取り外し方

針を一番上に上げ、補助テーブルを取り外し、フリーアームの前にある釜開閉カバーを開きます。付属品のドライバーで2本のネジを緩め、針板を取り外します。①

釜の清掃および注油の方法

ボビンケースのツメをおこし、釜からボビンケースを取り出します。③ 釜カバーの留め具(a)を、外側に開きます。釜カバーと(b)および中釜(c)を取り外します。ブラシで送り歯や釜の糸くずを取り除きます。②

その後、柔らかい布で中釜(c)、大釜(d)および釜カバー(b)を清掃して下さい。注油は、(d)の部分に、ミシン油を1,2滴落すようにします。はずみ車を回転させて、釜ドライバー(e)を左側にして、中釜(c)と釜カバー(b)を元に戻して、釜カバーの留め具(a)で固定します。最後に針板を取り付けます。

ご注意

針が下の位置にある場合には、中釜を取り外すことはできません。

釜カバーをセットした後ははずみ車を手で廻し、2～3針動かして問題なくセットされている事を確認されたうえで、ご使用下さい。

◆ 困ったときには

問題	原因	解決方法
上糸が切れる	- ミシンの糸かけが間違っている。 - 上糸調子が強過ぎる。 - 針に対して糸が太過ぎる。 - 針の挿入方法が間違っている。 - 糸立て棒に糸が絡まっている。 - 針に損傷がある。	- 糸かけをし直して下さい。 - 上糸調子を緩めて下さい。(小さい数字) - 太い針に交換して下さい。 - 針を入れ直して下さい。(平らな面が後ろを向く) - 糸コマを外して、糸立て棒に絡まった部分を外して下さい。 - 針を交換して下さい。
針目が飛ぶ	- 針の挿入方法が間違っている。 - 針に損傷がある。 - 針のサイズが布に合っていない。 - 押えの取付け方が間違っている。	- 針を入れ直してください。(平らな面が後ろを向く) - 針を交換して下さい。 - 糸と布に合う針に交換して下さい。 - 押えを正しく取り付けして下さい。
針が折れる	- 針に損傷がある。 - 針の挿入方法が間違っている。 - 針のサイズが布に合わない。 - 目的の違う押えを使っている。	- 針を交換して下さい。 - 針を入れ直して下さい。(平らな面が後ろを向く) - 糸と布に合う針に交換して下さい。 - 正しい押えに交換して下さい。
縫えない	- 糸かけが間違っている。 - 上糸のかけ方が間違っている。 - 針、布、糸の組み合わせが合っていない。 - 糸調子が間違っている。	- 糸かけを確認して下さい。 - イラストをご参照の上、上糸をかけて下さい。 - 糸と布に合う針に交換して下さい。 - 糸調子を正しくして下さい。
縫い目にギャザーが寄ったり、つれたりする	- 布に対して針が太過ぎる。 - 送り長さの設定が間違っている。 - 糸調子が強過ぎる。	- 細目の針に交換して下さい。 - 送り長さを調整し直して下さい。 - 糸調子を緩めて下さい。
ステッチが均等でない、送りが均等でない	- 糸の品質が悪い。 - 下糸のかけ方が間違っている。 - 布が引っ張られている。	- 高品質の糸をお使い下さい。 - ボビンケースを取り外して、糸かけをし直して下さい。 - 縫いながら布を引っ張らず、ミシンの送りに任せて下さい。
ミシンの音が高い	- ミシンに注油が必要。 - 釜または針棒に毛羽やオイルが付着している。 - オイルの品質が悪い。 - 針に損傷がある。	- 説明書に従って注油して下さい。 - 説明書に従って釜および送り歯を清掃して下さい。 - 注油にはミシン油をお使い下さい。 - 針を交換して下さい。
ミシンが動かない	- 糸が釜に絡まっている。	- 上糸およびボビンケースを取り外して、はずみ車を手で前後に回し、絡まった糸を外して下さい。その後、説明書に従って注油して下さい。

◆ 修理サービス要領

修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には ご購入店から 1 年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常 8 年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていても、以下のような場合には保障期間であっても修理サービスが有料となります。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理な使用により不調、故障または損傷したとき。

世界のトップブランド
SINGER[®]

株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東 2 丁目 9 番 5 号

TEL: 03-3837-1865

® は THE SINGER COMPANY の登録商標です

